

2050年の君たちへ4 AIにできないことは何だろう？

データで見る2050年の日本

○AIは文章を書く、画像を作る、翻訳する、情報を整理することができる

○AIやロボットを活用できる人材は大幅に不足すると予測されている

○多くの仕事でAIが活用される社会になる

○人間には創造力や共感性、意思決定する力がより求められる

皆さんは、生成AIを使ったことがありますか。今のAIは、質問に答えるだけではありません。問題を解き、作文を書き、外国語を翻訳し、絵や音楽をつくることもできます。10年前には想像もできなかったことが、今では当たり前になりつつあります。

社会は今、大きな変化の中にあります。インターネットやAIなどのデジタル技術が急速に進歩し、現実空間とデジタル空間が高度に

融合した「Society5.0（※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させることで、経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」を指す概念です。）」と呼ばれる社会が実現しようとしています。生成AIの発展によって、これまで人間が担っていた知的な仕事の一部をAIが行うようになりました。

皆さんが社会の中心となる2040年から2050年頃には、その変化はさらに進んでいるでしょう。ある予測では、AIやロボットを活用できる人材が大きく不足する一方で、事務や販売などの仕事の中にはAIによって代替されるものも増えるといわれています。

では、そのような時代に必要とされる力とは何でしょうか。かつては、たくさんの知識を覚え、正しい答えを早く見つけることが重視されていました。しかし、これからの社会は、変化が激しく先行きが見通せない「VUCA時代（※変動性・不確実性・複雑性・曖昧性が高まった現代社会やビジネス環境を指す概念です。）」と呼ばれています。企業の寿命も短くなり、一生同じ仕事を続けることが当たり前ではなくなっています。そのため、AIに指示されたことをそのまま行う力よりも、自ら課題を発見し、考え、判断し、行動する力が求められるようになります。

そこで、皆さんに問いかけます。「AIにできないことは何だろう？」AIは膨大な情報を集め、正確な答えを導き出すことが得意です。しかし、人の気持ちを本当の意味で理解することはできません。○友達が悩んでいるときに寄り添うこと。○失敗した仲間を励ますこと。○学級や学校をよりよくするために何が必要かを考えること。こうした力は、人と人との関わりの中で育まれるものです。

また、AIは過去の多くの情報をもとに答えを生み出しますが、「まだ誰も考えたことのない問い」を見つけたり、新しい価値を創造したりすることは、人間の大切な役割です。

さらに、便利なデジタル社会には注意も必要です。SNSやアルゴリズム（※問題を解決するための手順や方法を指します。）によって、自分と似た考え方や情報ばかりが表示されることがあります。その結果、知らないうちに偏った情報だけを信じてしまう危険性もあります。だからこそ、○情報が正しいか確かめる力○複数の意見を比較して考える力○根拠をもって判断する力。といった情報リテラシーも、これからますます重要になります。

未来の社会で求められるのは、

- | | |
|------------------|------------------|
| ●自分で問いを立てる力 | ●知識を結び付けて活用する力 |
| ●新しいアイデアを生み出す創造力 | ●判断力 |
| ●コミュニケーション能力 | ●仲間と協力して課題を解決する力 |
| ●AIを正しく活用する力 | です。 |

皆さんは今、授業や学校行事、部活動、生徒会活動などを通して、その力を少しずつ身に付けています。友達と話し合い、意見をまとめ、時にはぶつかりながらよりよい答えを見つけていく経験は、人間にしかできない学びです。学校で学ぶ意味は、単に知識を覚えることではありません。学んだ知識を結び付け、未知の課題に活用し、「なぜだろう」と考え続ける力を育てることにあります。

2050年の社会では、AIと競争するのではなく、AIを上手に活用しながら、人間にしか生み出せない価値を発揮することが求められるでしょう。

最後に、もう一度問いかけます。AIが何でもできる時代に、あなたにしかできないことは何でしょうか。その答えを考え続けることこそが、未来を切り拓く第一歩になるのかもしれません。

家庭学習を考える3 ～続ける力～

前号では、「頭で理解したことを行動や実践につなげること」、そして目標から逆算して計画を立てることの大切さについてお話ししました。では、計画を立てた後に最も大切なことは何でしょうか。それは、続けることです。皆さんは、これまで学校だよりで「努力と成果」や「努力曲線グラフ」（6月17号）について紹介したことを覚えているでしょうか。努力を始めると、すぐに成果が表れるとは限りません。勉強を頑張ってもテストの点数がすぐには上がらないこともあります。しかし、それは決して努力が無駄になっているわけではありません。努力は目に見えないところで少しずつ積み重なっています。そして、ある時を境に成果として表れ始めます。途中で「やっても意味がない」と諦めてしまうと、その成果を見る前にやめてしまうことになります。反対に、コツコツと続けた人は、ある時「できるようになった」「分かるようになった」という瞬間を迎えることができます。

また、「エビングハウスの忘却曲線」（5月1号）の話もしました。人は一度覚えたことでも、時間が経つと忘れてしまいます。しかし、忘れること自体は悪いことではありません。大切なのは、忘れる前や忘れた後にもう一度学び直すことです。復習を繰り返すことで記憶は定着し、長く残るようになります。つまり、学力を伸ばすために特別な才能は必要ありません。毎日10分でも教科書を見返す。宿題を丁寧にやる。間違えた問題を解き直す。分からないことをそのままにしない。そんな小さな積み重ねを続けることが、学力向上への一番の近道なのです。

私は七中祭の体育の部や合唱の部を思い出します。本番当日だけ頑張ったから成功したのではありません。日々の練習を積み重ね、仲間と試行錯誤を繰り返したからこそ、皆さんの素晴らしい姿につながりました。学習も同じです。テスト当日や受験当日に突然力がつくわけではありません。今日の学び、明日の学び、その積み重ねが未来の自分をつくっていくのです。

勉強が得意か苦手かは関係ありません。大切なのは、昨日の自分より少しでも前に進むことです。計画どおりに進まない日があっても構いません。そこでやめてしまうのではなく、もう一度計画を見直し、再び始めればよいのです。皆さんには、「どれだけ長い時間勉強したか」だけでなく、「どれだけ続けることができたか」を大切にしてほしいと思います。一日一日の小さな積み重ねが、やがて大きな自信となり、皆さんの未来を切り拓く力になっていくはずです。

生徒会役員選挙に向けて

現在、生徒会役員選挙に向けた選挙活動が行われています。明日は立会演説会があり、立候補者一人ひとりが、公約や生徒会役員として取り組みたいこと、そして七条中学校をより良くしたいという思いを全校生徒の前で語ります。ぜひ、それぞれの話にしっかりと耳を傾けてください。

演説会の後には投票が行われます。投票は、自分たちの学校の未来をつくる大切な一票です。一人ひとりが責任をもって判断し、真剣に投票してほしいと思います。また、選挙は投票して終わりではありません。選ばれた生徒会役員だけが学校をつくるのではなく、全校生徒一人ひとりが生徒会活動の担い手です。役員の活動に協力し、学校の課題や魅力について共に考え、行動していくことが大切です。七条中学校の現在と未来をより良いものにしていくために、みなさん一人ひとりの主体的な参加を期待しています。

先輩からのメッセージ2

●私が中学校時代に頑張っていた良かったことは、ソフトテニス部での活動です。毎日練習をしてもなかなか上達せず、試合で思うような結果が出せないこともありましたが、仲間と自主練習をして目標達成に向けて努力していました。一人では頑張れなかったことでも、仲間と一緒に目標に向けて頑張れたと思います。また、お互いにアドバイスをしたり、褒め合ったりする中で、仲間と協力して物事に取り組むことの大切さも学びました。この経験は大学生になった今でもラクロス部で活動する中で活かされています。

●私が中学校時代に頑張っていた良かったことは「部活動」「行事」です。部活動は当時苦しく、辛く毎日の練習から逃げ出し、部活動を辞めようと考えたこともありましたが、今となっては毎日頑張りが続けたこと、昔はこんなことができていたという事実が今の自分の支えになっています。また、行事に関して、大人になると大人数で集まって何かをするということはほとんどありません。特別な思い出がなくても経験できてよかったという思いは残ります。大人数で何かすることに全力で取り組んでください。中学のうちにやっておけばよかったことは勉強です。これは私にとって、やっておけばよかったこと、やりたいことなので人によって変わるといいます。高校生、大学生と大人になるにつれ、自由に使うことのできる時間はどんどん短くなっていきます。少しでも興味のあること、長い時間をかけてやりたいこと、やらなければいけないこと、自分で見つけ出して取り組んでください。